

有害化学物質と心の発達

～動物モデルを用いて心の萌芽への影響を評価する～



ヒトを含む全ての生物は自然環境中の様々な化学物質の影響を受けつつ暮らしています。また、ヒトは自らが新規化学物質を作り出し豊かな社会の構築に役立っています。

それに伴い環境中に存在する化学物質の種類は飛躍的に増加していますが、その全ての化学物質の安全性が確かめられているわけではありません。現在、有害化学物質曝露が精神疾患発症率の増加に関与している可能性が危惧されています。特に、胎児期や新生児期など発達期の子供の脳は化学物質曝露の影響を受けやすいので、有害化学物質の曝露が子供の脳の発達に影響を与えないように注意深く監視する必要があります。

私たちは、胎仔期～幼仔期の動物に化学物質を投与し行動異常を検出することで化学物質の発達神経毒性を評価する実験を行い、心の発達に影響する環境要因を見出す研究を行っています。

このセミナーではその研究の一端を紹介します。

講師：前川 文彦
主任研究員(国立環境研究所)

日時：2月23日(金) 16:00～
場所：ゲノミクス棟2階 セミナー室